

日本板硝子株式会社 2006年3月期決算説明会 主なQ&A

Q1.NHテクノグラスの改善が遅れているようだが、最新の状況について。

A1.昨年の2Qより新組成の軽量ガラスに変えてきたが工程が不安定になり、立て直しにトライアルを続けてきた。4Qで改善の目処をつけるはずだったが、トラブルが続いた。しかし、最悪期は脱しており、順次回復を見込んでいる。シンガポールでは7G対応の3号窯が既に稼働し、台湾では4号窯が火入れを完了し、現在生産準備中にある。現在既存窯で起こっているトラブルの問題はクリアされつつあり、新窯では影響が出ないと見ている。

Q2.板ガラス分野の値上げについて、建築、自動車それぞれの状況について教えてほしい。

A2.建築用は6月出荷分からの値上げ(単板15%、機能ガラス8~10%)を打ち出しているが、月2億円以上の改善と見ている。機能ガラスの交渉がキーとなる。

自動車用は、個別の交渉を進めているところだが、従来から毎年あった年率数%という値下がりはなくなってきている。

Q3.PDPの認定遅れについて、最新の状況は？

A3.昨年夏より量産トライアルを行ってきた。基本特性はクリアしているが、微小な表面欠点のために最終認定を得られていない。研磨をすれば出せるがコストがかかってしまうため、研磨なしで生産できる技術開発を進めている。これに目処がつけば再度量産に取り組んでいく。